

Severe spontaneous hemoperitoneum in pregnancy may be linked to in vitro fertilization in patients with endometriosis: a systematic review.

子宮内膜症患者において妊娠中に発生する重症腹腔内出血は体外受精と関連している

: システマティックレビュー

Brosens IA, Lier MC, Mijatovic V, Habiba M, Benagiano G. Fertil Steril. 2016; 106: 692-703.

SHiP (spontaneous hemoperitoneum in pregnancy)とは、妊娠中または産褥期における外傷、子宮破裂、卵巣出血、異所性妊娠を除く急性腹腔内出血であり、早産、周産期死亡、時に母体死亡のリスクとなる重要な疾患である。子宮内膜症は不妊の原因に挙げられる一方、妊娠合併症としてあまり考えられてこなかった。しかし、近年子宮内膜症が SHiP の最大リスク因子であることが報告されている (Lier M et al. BJOG. 2017;124:306-312.)。

今回のレビューでは、45 の論文における妊娠中の SHiP 症例 64 例を対象としている。24 例が体外受精 (IVF-ET) による妊娠、40 例が自然妊娠であった。前者 24 例 (group1) のうち、子宮内膜症ありが 22 例、同なしが 2 例であった。後者 40 例のうち、子宮内膜症ありが 20 例 (group2)、同なしが 20 例 (group3) であった。SHiP における出血は、主に子宮後壁漿膜、広間膜、仙骨子宮靭帯から生じたが、その時期は、group1 で平均 28.6 週、group2 で平均 30.9 週、group3 で平均 32.3 週であり、IVF-ET による妊娠で有意に発症時の妊娠週数が早かった ($p=0.04$)。また、複数箇所もしくはびまん性出血は、group1 で 67%、group2 で 15%、group3 で 15%であった ($P=0.005$)。平均出血量は、group1 で 2720mL、group2 で 2152 mL、group3 で 1805 mL であり、3 群間に有意差はなかった。

本レビューで確認された全 SHiP 症例の約 3 分の 1 は、IVF-ET による妊娠であり、このうち 2 例 (8%) のみが子宮内膜症を有さず、大多数は中等度または重度の子宮内膜症を有していたことから、子宮内膜症の女性における IVF-ET が SHiP の発生率または重症度を高める可能性があることを示唆していた。また、全 SHiP 症例の 38 例 (59%) は子宮内膜症を有しており、過去の報告同様に、子宮内膜症が SHiP の発生率の増加と関連している可能性を示唆していた。

SHiP は妊娠を維持しながら出血を制御することがほぼ不可能な疾患であり、早い段階で帝王切開による分娩を考慮する必要がある。しかし、SHiP の術前診断は困難であり、しばしば子宮破裂、常位胎盤早期剥離、HELLP 症候群の肝破裂などと誤診されやすいとされているため、早期診断による適切な対応には、リスク因子を持つ患者の抽出は重要である。

近年、女性のライフスタイルの変化により子宮内膜症患者が増加し、また晩婚化や性感染症の蔓延などのため IVF-ET 妊娠が増加していることから、わが国において子宮内膜症を合併した IVF 妊娠の増加が予想される。IVF-ET 大国であるわが国において SHiP は軽視できない疾患であり、今後、周産期と生殖の両面からのさらなる研究が期待される。

(2019 年 6 月 文責: 評議員・幹事 二井理文)